

真剣に未成年喫煙を防止するために 受動喫煙防止啓発CDR「明日のきみたちへ」誕生秘話

伸びてしまった枝を刈るより 大地から芽を生やさない 環境づくりが大切です

加藤一晴 こどもをタバコから守る会・代表

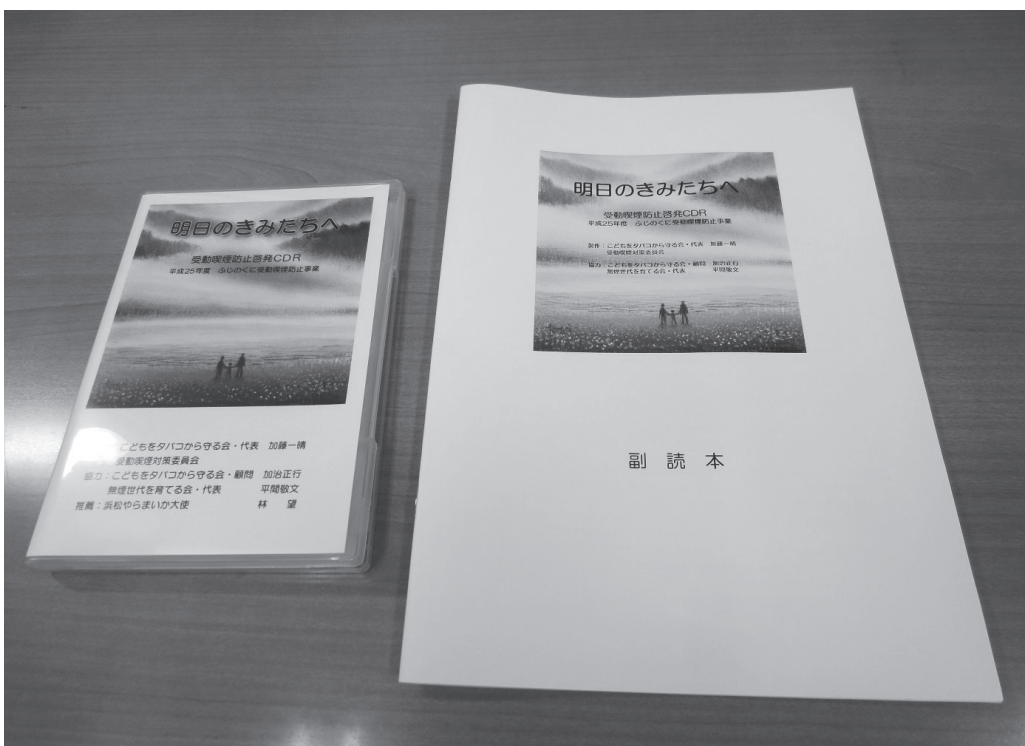
一般家庭40%のこどもが
受動喫煙に晒される

国民喫煙率は20%まで低下しましたが、30〜50歳代男性喫煙率は40%以上あります。

職場で肩身の狭い想いをしている父親たちは、家族に迷惑を掛けよう換気扇の下や、玄関外で吸っています。そうした光景を眺めているこ

どもたちは口々に「お父さん、タバコを止めて……」と言いますが、彼らが成人になると、吸い始めるケースが散見されます。

このことは2008年にカナダ・モン



ふじのくに受動喫煙防止事業助成金で作製した副読本『明日のきみたちへ』。浜松市から湖西市内すべての小学校・中学校・高等学校(約230校)での受動喫煙防止講座で使用することになる。

トリオール研究者(Jennifer O'Loughlin教授)らにより報告されたのですが、受動喫煙により5%の児童がニコチン依存症になるということです。

大人たちが、無^{むご}辜のこどもたちの傍でタバコを吸うことで、結果的に負の遺産を背負わせることを認識すべきです。そして、この退^{ひこ}靡的なサイクルは、家庭内にタバコが存在する以上繰り返されます。喫煙(Smoking)・受動喫煙(Second-hand smoking)・3次喫煙(Third-hand smoking)の有害性が明らかになった現在、根本的な解決は、保護者喫煙を止めさせることです。

法的根拠が脆弱な教育現場

未成年喫煙を禁止するものとして、明治22年に制定された未成年者喫煙禁止法がありますが、成人は対象外です。それ以外には「新訂 喫煙・薬物乱用防止に関する手引…中学校編 平成7年」、「健康増進法第二十五条」「健康日本21…2010

年までに未成年喫煙をなくす」がありますが、罰則規定もなく、社会的規範を超えるものではありません。

実際に校舎の一部にもタバコ税が使われており、また保護者の中にもタバコ小売店経営者や、タバコ産業関連企業に就職されている方もいます。行政組織の一翼を担う教育委員会は、これらの思惑が複雑怪奇に絡み合い、解決策を見い出せないことも多いのです。

このように合法商品を後追いで規制することは、何^{どこ}処の国でも苦労しています。特に我が国では種々の事情があり、国家主導の喫煙規制は顕在化できません。最近、8年掛かったアスベスト問題で、裁判所は国の責任を認めましたが、タバコに関しては先進諸外国の趨勢とは乖^{かい}離が

あります。違法ドラッグやユツケのような毅然とした態度が示せないのです。すでに校舎に投入されたタバコ税と児童・生徒の健康問題は分けて考える時代なのです。

喫煙の有害性を、児童・生徒の口から、保護者に伝えることで、突破口は開けるのではと夢想しました。しかし、教育現場にはタバコ問題の専門家はおらず、ただでさえも多忙な教師の方々には禁煙啓発ツール(補助的機能)はなく、これまで無為な時間ばかり過ぎていきました。「健康日本21の2010年までに未成年喫煙をなくす」も空虚なスロー

児童・生徒に考えさせることです。タバコに関しては圧倒的な情報不足があるので、少しでも「不可解な無理解」を解消してもらうようにしました。

この場合、初回講演よりも10回目、100回目と回を重ねるうちに老練になることは多くの事例が示しています。

聴講する方も初めてなら、百戦錬磨の演者も少ないのが実情です。恐らく不安な気持ちで壇上に立つことになるでしょう。学校別に動画映像も挿入したので、実際に見聞きする緊

迫感は、児童・生徒の琴線をかき鳴らすはずです。

講師も毎年講演することに、訓練して身に付くような内容を目指しました。急遽、副読本の必要性に気づき、予算内で製本することができました。これにより事前予習が期待できます。CDRのタイトルは「明日のきみたちへ」とし、イラストを画家の足立典正さんに依頼しました。

最終的に小学校51枚、中学校56枚、高等学校55枚のスライド&動画映像を選定し、作製しました。締め切りが迫っていたため、至らぬ点もあり

ましたが、何とか期日に間に合うことができました。

岡山県作製の高校生向け動画「たばこはダサイ」

インターネットで、岡山県健康福祉部健康推進課健康づくり班作製の啓発アニメ「たばこはダサイ」が話題になっていました。これは平成26年2月に、晴れの国おかやまチャンネルで公開されてから、動画再生回数が4万回を超える勢いでした（10月1日現在で12万6576回再生）。

内容は、「未成年者の喫煙防止に向けたアニメーション映像で、主人公の男子高校生は、校内で人気のバスケットボール選手でしたが、女子生徒にたばこを吸っている姿を見られてしまい、格好悪いと嫌われてしまう。若者の間でも、たばこは、健康に悪影響を引き起こすだけでなく、ダサくて、格好悪いと言われています。それでもあなたはたばこを吸いますか？」というものでした。

すぐに岡山県健康福祉部健康推進課に書簡を送り、DVD現物を送っ



筆者（中段写真中央）が長年続けてきた地元小学校での「第15回雄踏小学校喫煙防止教室」でこどもたちと一緒に。その中心となっているのは、「生涯無煙」（書・山下瑠美子。左頁写真）の生き方。

幸運にも、ふじのくに受動喫煙防止事業助成金の話があり、応募することにしました。「受動喫煙防止啓発CDR」を作製し、浜松市・湖西市内のすべての、小学校・中学校・高等学校（およそ230校）に配布し、薬学講座ではない受動喫煙防止講座のツールにするのです。

早々に受動喫煙対策委員会（浜松市歯科医師会・浜松市薬剤師会・養護教諭）を立ち上げ、茨城県医師会理事の平間敬文先生を招聘（しょうへい）しました。

平間先生はこれまで、「子供たちにタバコの真実を」「小学生からの



禁煙教育自由自在」を上梓（じようし）しており、27年間に延べ48万人にCDRを使った啓発教育をしてきました。

ているので対策は難しいが、真実を伝えることが大切」とのコメントを頂きました。

やがて静岡県健康福祉部健康増進課から、申請受理の返事がありましたので、平成26年3月末までに、受動喫煙対策委員会を7回開催しました。

歯科医師会や薬剤師会から提供されたパワーポイント資料、そして普段使用しているプレゼンテーションを叩き台にしました。

受動喫煙防止啓発 CDRの目的

主目的は浜松地区・湖西地区の未成年に対する啓発教育ですが、それほど専任講師がいる訳ではありません。ん。つまり、ほぼ素人状態の講師が、知識を深めるには、どうすれば良いのかを考えました。講演をするたびに学ぶことができるように画策するには、法的根拠をハッキリと伝え、受動喫煙防止教育の立ち位置を示し、最新の動画映像に語らせることです。海外からの最新情報を提供し、

政令市浜松の健康寿命は、政令市20か所の中でナンバーワン（男性…72・98歳 女性…75・94歳）です。温暖な気候、適切な食料、離職率の低さもありますが、住民喫煙率の低さも指摘されています。特にこの傾向は女性で顕著です。

現状では、静岡県民の健康寿命もナンバー1ですが、県民男性喫煙率は37%とワースト10であり、県内喫煙率も温度差があります。県民に対し、神奈川県や兵庫県のように「罰則付きのタバコと健康のルール作り…受動喫煙防止条例」を提示するだけで、大勢の県民はタバコ問題の本質に気づくでしょう。

Jennifer O'Loughlin 教授が指摘するように、被害に遭っていることもののうち、5%は依存症になります。が、その彼らも20歳を超えると合法的喫煙者になります。実際、成人喫煙者独特の根拠の希薄な理論武装は、解除するのに時間がかかります。

おわりに

てもらい、今回のCDRに挿入しました。岡山県当局も県外に拡がることで、更に作品価値を高めると解釈したのでしょうか。真摯に未成年喫煙防止策を講じている広域自治体岡山に敬意を表します。

あらためて、これまでの因習と近

地域ニュース

「たばこはダサイ」アニメで訴え 県がDVD制作、学校に配布

岡山県は24日、未成年者に喫煙防止を訴えるアニメのDVD「たばこはダサイ」を作ったと発表した。インターネットの動画投稿サイト・ユーチューブで先行公開したところ、再生回数が2万回を超す好評ぶり。アニメの親しみやすさに加え、喫煙の「格好悪さ」を強調したことなどが受けているとみられ、学校現場に配布して啓発に役立ててもらう。

県によると、2010年調査で、未成年者の喫煙率は高校生男子3・3%、女子1・2%、13年3月策定の「第2次健康おやかま21」では、10年間で未成年者の喫煙率をゼロにする目標を掲げており、対象となる高校生らを強く意識した内容にした。

アニメは県立大デザイン学部の嘉数彰彦教授の協力で制作。主人公の男子高校生が、好きな女子に「体を悪くしてまで格好付けるなんて逆に格好悪い」と言われたり、所属するバスケットボール部の活動に影響したことで禁煙を始めるストーリー。教材で使いやすいよう、7分20秒にまとめた。

2月中旬にユーチューブの「晴れの国おかやまチャンネル」で公開。反響は大きく「静岡県で啓発活動する医師からは「講演で使わせてほしい」といった依頼も舞い込んでいるという。

（2014/3/24 22:16）

夢真拓大
未成年者の喫煙防止を呼び掛けるアニメ「たばこはダサイ」の一場面

夢真拓大
未成年者の喫煙防止を呼び掛けるアニメ「たばこはダサイ」の一場面

岡山県健康福祉部健康推進課健康づくり班が製作した啓発アニメ『たばこはダサイ』（山陽新聞より）。

未来の児童・生徒の健康問題とは無関係ということを実感しました。

協力的な教育委員会

湖西市教育委員会（3月27日）、浜松市教育委員会（3月28日）と記者会見を開きました。地元紙（静岡新聞・中日新聞）に加え、読売新聞浜松支局の記者が取材に来てくれました。実は、当該地域の教育施設には、私立、市立、県立そして国立の教育施設がありますが、窓口はひとつではありません。両委員会には湖西・浜松市教委以外から、連絡先の情報を提供頂きスムーズに運びました。そのため、各々の教育施設に一斉に送付することができました。

後日、それぞれの新聞に取材記事が掲載されましたが、記事を読んだ読者からの投稿「静岡新聞4月19日『ひろば』…喫煙防止啓発DVD利用を 45歳男性」「中日新聞4月26日『発言』…こどものためにタバコ我慢を 49歳男性」があり、反響の多さを物語っていました。

これまで保護者からの要望があっても、手立ての無い教育現場でしたが、有効なツールを得て学校医、学校歯科医、学校薬剤師そして養護教諭と連携して、効率の良い喫煙防止の取り組みが期待されます。

第128回春季遠江医学会の演題発表

平成26年6月15日（日）・グランドホテル浜松「孔雀の間」において、浜松地区・湖西地区の未成年喫煙防止の取り組み、平成25年度ふじのくに受動喫煙防止事業助成金による啓発CDR作製として発表しました。

遠江医学会は、明治37年創立の歴史ある学術総会ですが、公衆衛生部門の発表もあります。これまで未成年喫煙防止の取り組みは初めてでした。今回は第一報の報告でしたが、今後はアンケート調査を行ない、繰り返し情報提供したいと思います。浜松地区の学校医の参加する学術総会での呼びかけは、後々効を奏することでしょう。

文献

- 1) Jennifer O'Loughlin Addictive Behaviors (2008; 33: 1557-1563)
- 2) Arto Y. Strandberg Arch Intern Med. (2008 Oct 13; 168(18):1946-7)

左記の方々に感謝いたします。

製作…遠鉄システムサービス
絵…足立典正
副読本…東海電子印刷
前書き…浜松市やらまいか大使

林 望

協力…受動喫煙対策委員会（浜松市歯科医師会・浜松市薬剤師会）、加治正行、平間敬文、大和浩、来馬明規、稲垣幸司、山下瑠美子、青柳智和
動画資料提供…静岡がんセンター、日本禁煙学会、浜松医大肺がん手術DVD貸与…岡山県健康福祉部健康推進課
企画…静岡県健康福祉部健康推進課

